

令和8年度 篠路小学校「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：22007

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇令和7年度児童アンケートの結果から、「みんなで勉強することが楽しい」と肯定的に回答した児童が90.2%であり、「学校での授業はよく分かる」と回答した児童も90.4%と決して低くない数値となっている。また、「学習のルールを守っている」と回答した児童が93.2%と、安心して学ぶための教室環境が整っていると言える。</p>
	<p>◇令和7年度児童アンケートの結果から「学校での授業はよく分かる」と回答した児童が90.4%だったにも関わらず、NRT学力検査や全国学力・学習調査の結果は非常に低い。分かるのに結果につながらないことに課題を見だし、本当に生きて使える学びにつながる「分かる・できるから楽しい」授業や、基礎学力の定着につながる取組を設定する必要がある。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇令和7年度児童アンケートの結果から、「みんなが自分のことを大切にしていると感じる」と肯定的に回答した児童が90.5%と高い数値になった。また、「友達と仲良く助け合って生活している」と回答した児童も94.8%と多く、プラスの声掛けをして更に相互承認の感度を高めていきたい。</p>
	<p>◇令和7年度の児童アンケートの結果から、「自分の考えをみんなに伝えることができている」と回答した児童が69.9%と低い数値になった。この結果から、自分に自信がもてる協働探究の場づくりや、教師の意図的な価値付けなどの工夫（特に、失敗から学べる場の創出）が必要である。</p>

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

「やってみた！」は始まりの合図！ ～自分で一歩・みんなで一歩～

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研修部の重点「主体的に学ぶ子どもの育成」と「クラス全員で分かる！ できる！楽しい！が実感できる授業づくり」を目指す。</p> <p>(2) 単元にしっかりとAARサイクルの活用を位置付け、学びのスパイラルを意識した取組を継続する。（教材との出会い、解決への見通し、次につながる振り返りを丁寧に行う）</p> <p>◇失敗や分からない、できないことにこそ学ぶチャンスがあることを意識。</p>	<p>①児童委員会活動の充実（活躍の場の創出）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校のために」という思いを大切に、学校を変えた成功体験を積む。 <p>②いいねレターの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体でよさを認め合い、相互承認の感度を高める。 ・今年度は、特に教職員から児童へのいいね！を意識的に増やしていく。 <p>◇「やってみた！」は始まりの合図！ ～自分で一歩・みんなで一歩～</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
	<p>◇まずは慣れるために「やってみる！」そして「やってみた！」から、一層の充実のヒントが見える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UD（ユニバーサルデザイン）の一つとしてのICTの活用 ・個別探究、協働探究を支えるICTの活用 ・子どもサミットのオンライン開催 	

<本プログラムの実行に向けて>

